

円売り余地大、ドル円は回復へ

ドル円レートはこのところ円高ドル安ぎみに推移し、足元は119円を割り込んでいる。不振な米経済指標が続いているうえ、ドル高が米経済に与える悪影響への懸念も強く、ドル高を促す米利上げ観測が後退していることが主因だ。ギリシャ不安もリスク回避の円買いを正当化している。さらに、本邦貿易赤字の縮小や政府関係者による円安けん制発言といった日本側の要因も円安抑制に作用している。

今後も短期的にはさらなるドル高修正が有り得るが、3ヵ月後は現状比でやや円安ドル高との見通しを存置する。急激なドル高は、それ自体が利上げ観測後退に繋がるため見込み難いが、今後の米経済指標は寒波と港湾ストの影響が剥落・緩和することで持ち直しが予想される。米経済への不安後退により利上げ観測が高まることで、緩やかなドル高が再開しそうだ。また、日銀の追加緩和期待と実行(7月を予想)も円安材料になる。シカゴ投機筋のネット円売りポジション(CME)は、直近ピークの1/5に縮小しており、円売りの余地は大きい。

ユーロ円相場は、欧州金利の低下により、ややユーロ安基調となっているが、3ヵ月後は現状比横ばいと予想。欧州金利の低迷とギリシャ不安が引き続きユーロ安材料になるが、欧州景気には回復がみられるほか、日銀の追加緩和が対円でのユーロ安進行を阻むだろう。

長期金利は安定感を取り戻しつつある。今後は米金利の持ち直しが金利上昇圧力となるが、日銀の国債大量買入れのもと上昇余地は乏しい。3ヵ月後は現状比横ばい圏内と予想する。

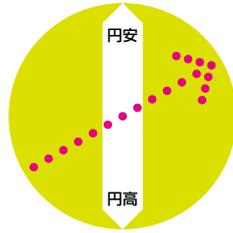


シニアエコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp
 1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同融資部門財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク
 The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所(現職)。

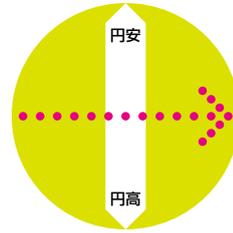


Market Karte

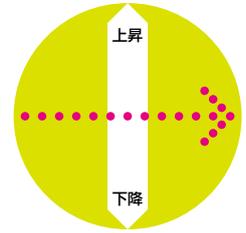
May 2015



ドル円・3ヶ月後の見通し

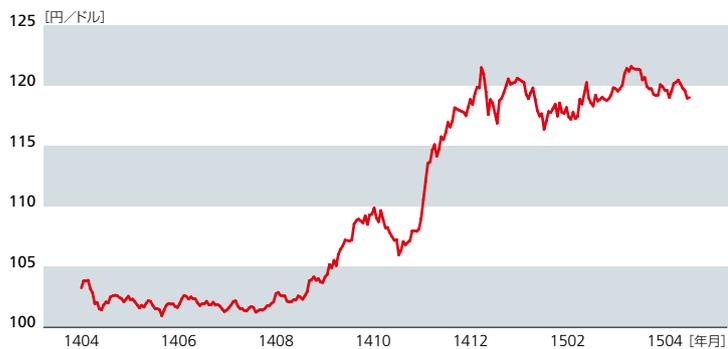


ユーロ円・3ヶ月後の見通し

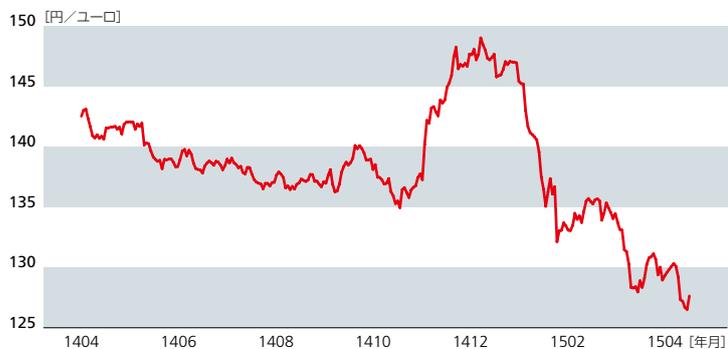


長期金利・3ヶ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

